

二万分一迅速測図の内容について

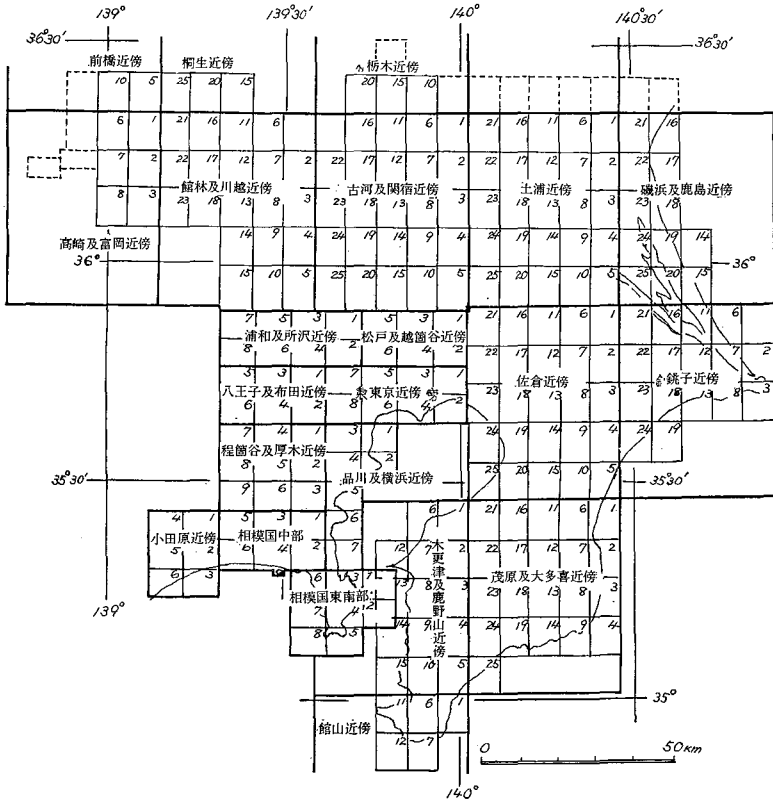
清水 靖 夫

はじめに

ここ数年来、二万分一迅速測図について、関心が高まっているが、具体的に、その内容について触れたものは、あまり無かったようである。従来⁽¹⁾の報文のほとんどは、地図学史的な内容が主体であった。ここでは、関東地方の大部分を被う、第一軍管地方迅速測図について、その内容の一部を、前後の年代の地図類等から、比較してみるものである⁽¹⁾。

従来まで

この迅速測図群を地図学史的にとりあげたのは、先ず小野三正であった⁽²⁾。しかし、本地図群の全貌を、つかむには至らなかったが、地図の存在を、衆目に認識させた功績は小さからざるものがあつた。次にとりあげたのは、筆者で⁽³⁾⁽⁴⁾関東地方の歴史地理的な史料としてと、わが国のほぼ同時代に作成された地図類との比較、⁽⁵⁾位置づけであ

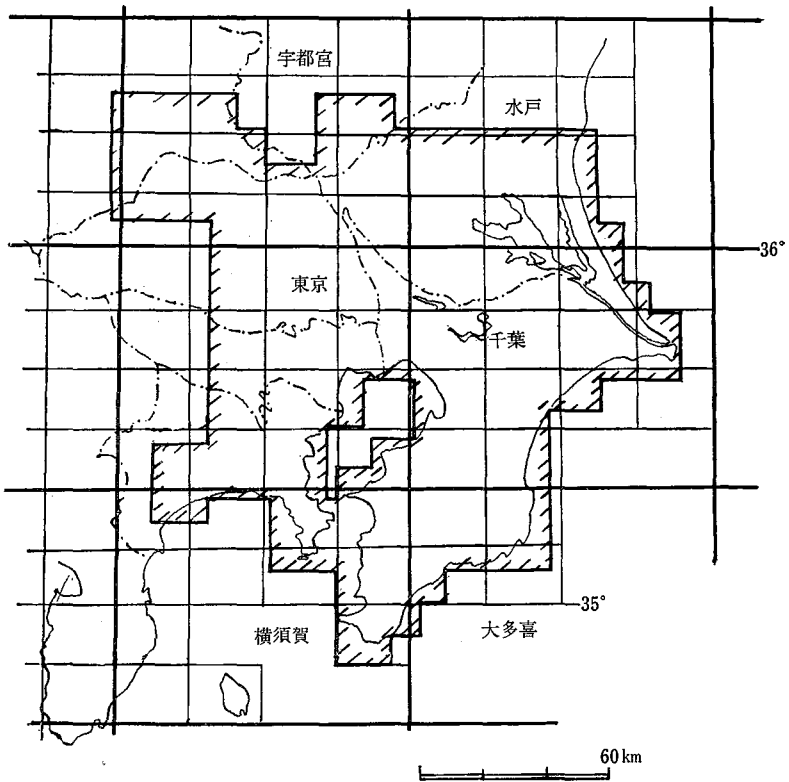


第1図 2万分1迅速測図の作成された範囲

った。丁度日本国際地図学会の創設、地図資料協会の発足の時期でもあった。これらの団体の活動により、明治初期の測量界の状況が次第にはっきりしつつあるので、本図群の不明確部分も、今後一層明確化されるものと思われる。

作成範囲と測量年代

測量図化された範囲は、第1図の通りで、関東平野の大部分にわたり、更に、三浦・房総両半島の全域が含まれる。本図群に含まれる都市は、東京・横浜・千葉・浦和・前橋などの府県庁所在地のほか、周辺部では、横須賀・小田原・秦野・厚木・八王子・飯能・寄居・鬼石・吉井・高崎

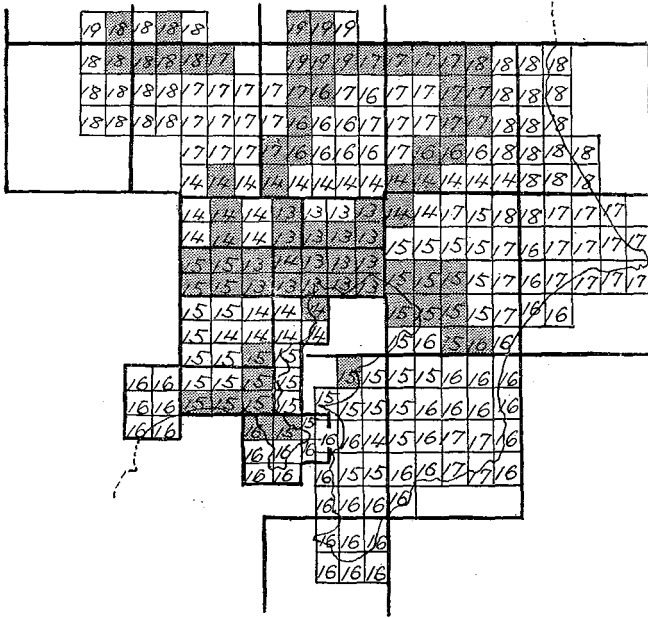


第2図 2 万分1 迅速測図の図郭割

太線は20万分1 地勢図，細線は5 万分1 地形図の図郭

桐生・栃木・下館・石岡・磯浜・銚子・勝浦・館山と関東地方の主要部分のほとんどに及び、この範囲から外れる所としては、水戸・宇都宮より北方の地域のみである。なお水戸は、第一師団作成の二万分一が(5)宇都宮は、陸地測量部の五万分一が(6)、それぞれ、正式測量(基本図測量)以前に完成していた。総面数二四〇面である。

この迅速測図は、班別に組織されたグループにより測量が進められ、測量原図は、二五×二〇浬(五×四浬)の縦長の、明治十三年式とよばれる色彩を用いた美しい、所謂フランス系といわれる図式記号に拠るものであった。やがて刊行に際して、



第3図 測量年紀 (数字は明治)

網目のかかった部分は修正図のあるもの

一色線号式の迅速測図記号(ドイツ系の記号といわれる)に改められて出版された。その際、北関東、東関東、房総半島は、四測量原図を一図幅とした五〇×四〇(二〇×八杆)の縦長図として刊行され、東京以南・以西の部分は現在の地形図と同じ横長図で、緯度差四分×経度差六分(二万分之一地形図の図積に当る)の切図とし、地形図と同じ

体裁で刊行した。その結果、縦長図と横長図の接する部分に、北方で四種、東方で二種の空隙が生じ、その部分は、縦長図側の接する図幅を、その長さだけ長くしている。また元来縦長図の原図を横長図に組み替えたため、小田原近傍の西端縁には、一一種(二二〇〇米)程の空白部ができてしまい、一方既測図部分でもこの図郭割からはみ出てしまった狭小部分は、陽の目を見ることなく忘れられてしまっている。

測量が最初に始められたのが、明治一三(一八八〇)年、東京付近からで、次第に周辺に及び、茨城県東部、群馬県が一八年、最終の一九年は栃木県南部地域であった(第3

図参照)。なお、明治一八年着手の正式（基本）測量にともない、小田原・箱根方面に測量が及び、二一年道志・丹沢山地の測量が完了するに伴ない、迅速測図小田原近傍を廃して、補足図三面を、迅速測図と地形図との空隙部に作成した(9)。

本図群は、周囲で、地形図が完成するに及び順次廃止されていったが(10)、最終的に絶版になったのは、大正末年であろう。その間、修正が行われたのは、鉄道補入が大部分で(11)、下谷区・川口町・蔵駅・浦和駅以北諸川町迄は日本鉄道、小山駅・壬生町以西前橋迄は両毛鉄道、小山駅以東安居村迄が水戸鉄道、下谷区・市川駅・松戸駅以北安居村迄が日本鉄道(常磐線)、麴町区以東大網村迄が総武鉄道、横浜区以南横須賀駅迄が横須賀線、雪下村以西平塚駅迄が東海道本線、麴町区、内藤新宿、板橋駅、田無町、布田駅、府中駅、八王子駅が甲武鉄道、川越、府中駅間が川越鉄道と各鉄道の開通と、軍事施設の市街地中心部からの分散(12)であった。

刊行図の表現

先に記したように、この迅速測図群は、測量の段階と刊行の時とで、図式記号が異っている。即ち(明治)十三年図式と迅速測図記号である。図式という言葉は、明治二四年式図式以後の言葉であり、十三年式図式という言葉は、陸地測量部治草誌中で便宜的に作られた言葉であり、元來は渲染形式と呼ばれた色彩を用いた記号であった。表現は、黒一色を用いるより明るく見易いばかりでなく、単色では表現できないいくつかの部分をもっていた。例えば、家屋の種類である。市街地内部の塙工(コンクリート)製の建造物の存在で、測量原図には、すべて表現されている。水田(藍に微量の烏賊墨)には色に田・沼と頭文字を加え(これは一色で記号化された)、森林には、濶・鍼・枯・焼、

渲彩式記号の一例

色	物 体	色	物 体
黒色	木造家屋	草緑	草地・芝地
紅色	塙工物体	鈹緑 (金緑)	果園
藍色	水部	赭黄 (熟橙色)	乾濠
黄色	木造物体	櫻色	桑畑
烏賊黒	泥地	茶色	茶畑
鉄色	鉄造物体	葡萄酒色	葡萄畑
米田色	田	中性色	岩石
木緑 (深緑)	森林	砂色 (橙色)	砂地・塩田

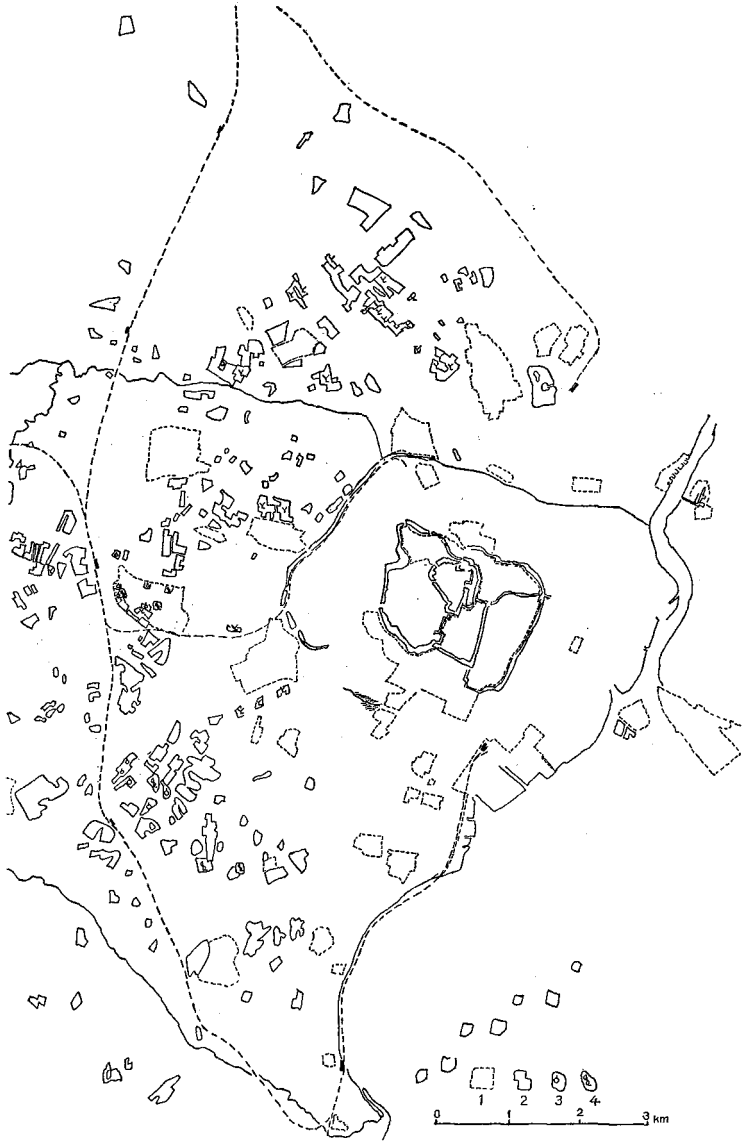
の地形図のように、傾斜の急な山地で、首曲線を二本ないし三本省略して、計曲線を主体にした山地表現もなく、すべての等高線が丁寧を描いてある。

迅速測図の内容

迅速測図に盛られている内容は、いうまでもなく、測量年紀にある年代の、用図目的に叶った（この場合、主とし

竹、松、杉、桧、檜等を記し（大部分記号化）、黒色の線状物体をひき立たせている。やはり、線号式記号より、色号を用いた記号で表現された方が、地図は、はるかに優れている。但し、極小部分では、色彩でも不明瞭になり、表現はむづかしい。

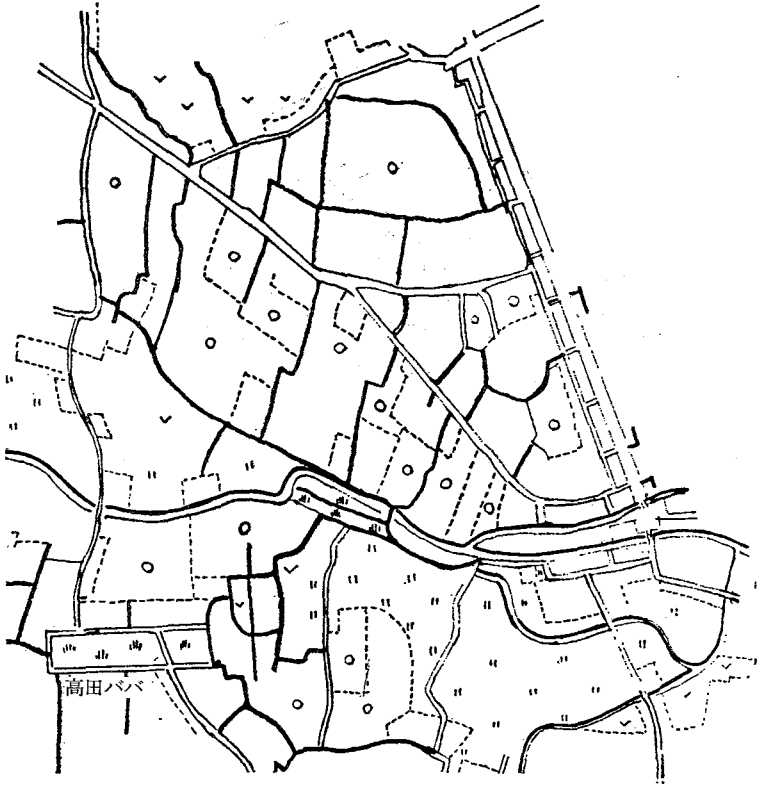
刊行図の二万分一迅速測図記号は、それなりの表現上の苦勞がみられる。副（建物）記号が小さいのは、銅版印刷もさることながら、都市内の表現を考えたのことと思われる。また実際には使用されなかった記号も若干ある。鉄道馬車、氷山などで、前者は過渡期的なもの、後者は外国の記号表の影響である。一方記号表に無い記号もあり、地下水道の小さなものなどである。畑・水田・田の記号は、畑や田の形に似せて描く記号なので、畦畔がそのようになっているということではない。等高線間隔は、首（主）曲線が五米、計曲線が二〇米毎で、平坦部でも五米未満の補助曲線の使用はないようである。また、後



第4図 迅速測図上にみられる政府用地と茶畑

1(破線) 政府用地 2(実線) 茶畑 3果樹園 4 葡萄園 Yは桑畑

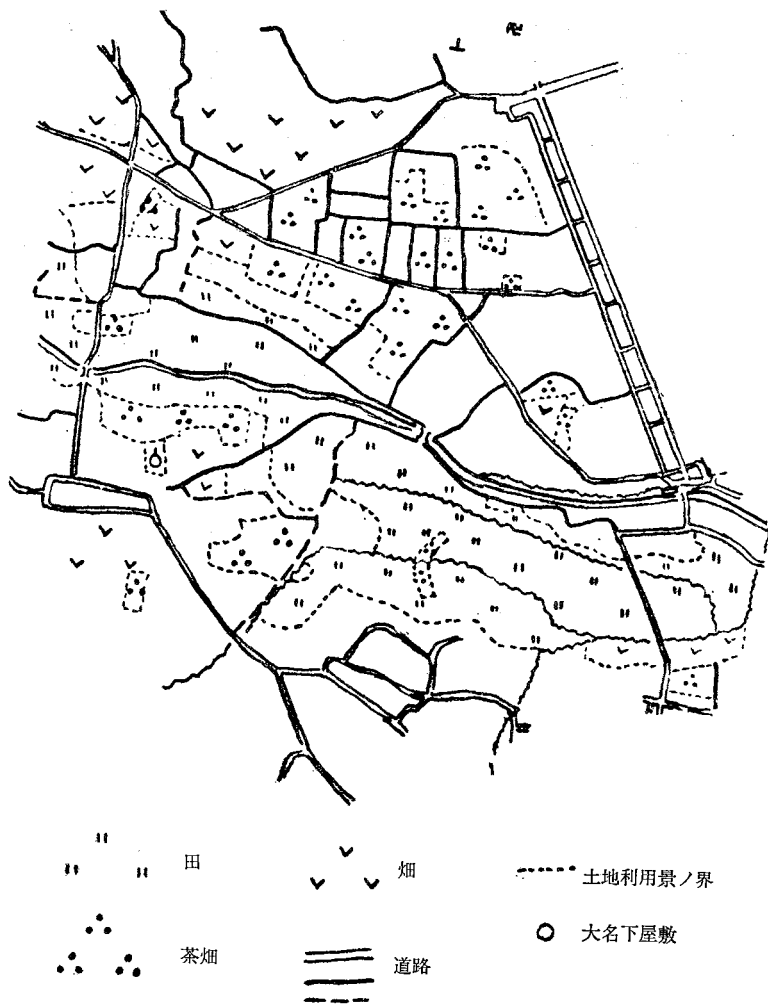
寺國護



第5図の1 江戸川橋付近の土地利用

安政6（1859）年須原屋板江戸図より

て軍用、結果的には多目的（地物の記録であり、当時としては、最も進んだ測量により表現されている⑬）。この地図は、切図形式⑭で行われたわが国最初の地形図（迅速測図）であれば、それ以前に類型の地図は存在せず、近代的な、地表の表現の最初であり、その地表の状況が、どの位以前からその状態であり、何時頃までそうであったのか、ということが、用図上大切になる。最も良い方法は、いくつかの地図類の比較であるが、この迅速測図



第 5 図の 2 江戸川橋付近の土地利用
迅速測図 下谷区 (明治 13 年) ・板橋駅 (明治 14 年) より

の測量図化された範囲で、そのような地図の存在が考えられるのは、東京（江戸）と横浜である。他の地域では、残念乍ら、比較に耐えるような地図は、それ以前には、ほとんど無かったと考えられる。他方、考えられることは、当時の社会の変化の早さが、どれ程であったのかということ、即ち地図にどの程度反映し得た時期かということになる。明治一〇年代は、工部省の事業等は整備期であり、民間が動き出すには未だ大分間があり、その意味では、特定の地物を除いては、維新時と大きな変化はなかったと考えて良からう。

維新後の変化例

維新によって、大きな変化をとげたのは、東京であり、横浜であった。東京の若干例を掲げてみることにする。

東京の市街地内は、維新を境に、大きな変化をとげ、桑茶樹芸計画をはじめ、区制の変更等、変動が大きかった。また中心部分には軍事施設をはじめ、明治政府の諸施設が置かれ（後年分散するが）るなどの変化が著るしかった。しかしながら、道路網、河川網には殆んど変化はみられない、明治一〇年代の東京は、少くとも若干の鉄道を除いては、交通網の変化はなかった。

都市化地域の変化については、江戸図に、居住地を明確に表示したものが少ないので、正確な対比が行えないのと一方、二万分之一という縮尺は、都市の内部を表現するには、小さすぎるようである。

皇居前の大名小路は、明治政府の中枢部に占められ、日比谷の練兵場（現公園）は外桜田の大名上屋敷群、三崎町の練兵場は大部分が講武所のあとで、松平讚岐守中屋敷がかかっている。仮皇居（迎賓館）は紀州の屋敷、新宿の植物御苑は、内藤駿河守の中（下）屋敷であったなど、すでに多くの書物にみえるところである。

迅速測図で、特徴的なのは、東京近郊の茶畑の分布である。特に北部、西郊に著るしいのは、第4図でみるとおりである。更に詳しくみる為に、一例を、江戸川橋から早稲田田圃付近にとってみると(第5図参照)、江戸図の方は、地図の周辺部に当るので、東西方向に圧縮された図柄だが、○印を付した下屋敷を主体に茶畑に変化している。水田あるいは畑地の輪郭は、地図での比較でみる限り、大差は認められない。ということは、この付近では、農村への市街地の進出は殆んどみられない、というより、東京縮小期の最後期であろう。

大名の諸屋敷のうち、政府に上納し、庭園等の設備の整っていたものは、そのまま、以後も庭園として残っていくことになる。前述の新宿御苑、尾張徳川家の戸山山荘(戸山学校)、松平時之助(柳沢吉保)の六義園である。

東京で、江戸図以降にみられる変化の以上の他は、上野の山では、寛水寺領の大部分が政府用地となったため⁽¹⁵⁾であり、市街地内部の再開発、あるいは街道沿い(日光街道)、一部の歓楽街の門前付近⁽¹⁶⁾などの若干にすぎない。

結びにかえて

最も変化の大きい部分を例にとつて、迅速測図の内容と性格の一端にふれたつもりである。この図群だけで前述したように二四〇面に及び、すべてにたいして検討するわけにはいかなかったが、この図群の一応の傾向は、変化の殆んどない農山村部にあつては、五万分一地形図の完成する明治末期まで、十分使用に耐えたし、大きな変化もなく、明治初期の姿を残していたものと思われる。なお図名と測年の一覧表を掲げておく。

注

(1) 第一軍管地方迅速測図は、明治二二(一八八八)年、軍制の改革に伴い、第一師管地方迅速測図とよばれるようになった。

た。発行機関名も、参謀本部陸軍部測量局から参謀本部傘下の陸地測量部となった。

(2) 小野三正 迅速測図と仮製地形図

人文地理 四一二 昭二七再び迅速測図と仮製地形図について

人文地理 八一二 昭三一

(3) 清水靖夫 関東地方と迅速測図

近世関東の歴史地理 昭三八

(4) 清水靖夫 初期の地形図類(一)

地図 二一一 昭三九

(5) 水戸から谷田貝にかけてと、楡木付近・佐野付近に、明治二五年(及びそれ以降)第一師団司令部が、第一師管地方迅速測図に接続させて、迅速測図を行い図化し、刊行した。販売はしなかったと思われる。なお安中付近は、近衛師団司令部が作成した。

(6) 明治二五年測図、五万分一迅速測図、宇都宮近傍、大田原・喜連川・宇都宮・壬生の四面、陸地測量部発行、販売図。

(7) 地図課服務概則十一条、十二条、陸地測量部沿革誌 六一一

(8) 原図にあって、刊行図に無い部分は、小田原近傍北接一五裡程の部分と小田原に南接する根府川付近に未刊部分がある。なお栃木町に西接する部分にも半図分の未刊部分がある。

(9) 大山町付近(地形図及迅速測図間)補足図 第一号川尻及伊勢原(明治二二年測量二八年製版) 第二号大山町(一六年測量二八年製版) 第三号曾展村(一六年測量二八年製版) 第一号は、幅六・四裡長さ四分(緯度差)×五枚の短冊形、地形図に接する迅速測図の西側に貼付利用する。

(10) 前出(4) 地区別廢版図幅名がある。

(11) 日本鉄道、現東北本線の本地域の開通は、利根川橋梁部分を除き、明治一八年七月、大宮駅以北の図幅は二六、二七年に修正が行われた。現高崎線の部分は、明治一六年七月から一七年八月にかけて高崎まで開通、迅速測図が一七・一八年測図なので既に描入されている。両毛鉄道は、二一年五月から一月、水戸鉄道は二二年一月開通などである。

(12) 三崎町練兵場は、明治二三年廢止、三菱が陸軍から購入。青山練兵場設置は、明治二二年二月第一師団輜重兵第一大隊が

6	須田新田	17測	
7	野尻村	17測	
8	小浜村	17測	
11	須賀山村	17測	
12	万歳村	17測	
13	飯岡村	17測	
16	小見川村	17測	
17	鑄木村	17測	
18	野手村	17測	
19	柏田村	16測 ²⁾	
21	佐原村	18測	
22	多古村	16測	
23	八日市場村	16測	
24	蓮沼村	16測	

土浦近傍

1	長岡村	18測	
2	小幡村	18測	
3	玉造村	18測	
4	井上村	18測	
5	浮島村	14測 ³⁾	
6	安居村	18測	30修
7	竹原村	17測	30修

8	高浜村	17測	30修
9	木原村	16測	
10	江戸崎村	14測	
11	岩間下郷村	17測	28修正再版30再修
12	石岡町	17測	30修
13	下稻吉村	18測	30修
14	島津村	16測	30修
15	根本村	14測	
16	西小墻村	17測 ⁴⁾	
17	柿岡村	17測	
18	藤沢村	17測	
19	土浦	16測	30修
20	牛久村	14測	30修
21	真壁町	17測	28修
22	筑波町	17測	
23	北条村	17測	
24	谷田部町	16測	
25	山王村	14測	30修

佐倉近傍

1	神崎本宿	18測	
2	大里村	17測	
3	柴山村	17測	

4	成東町	17測	
5	四天木村	16測	
6	滑川村	15測	
7	成田村	15測	
8	八街村	15測	
9	東金町	15測	
10	大網駅	16測	30修
11	安食村	17測	
12	中川村	15測	
13	佐倉	15測	30修
14	中野村	14測	30修
15	土気町	15測	30修
16	竜ヶ崎村	14測	
17	白井村	15測	
18	下志津村	15測	29修
19	千葉町	15測	29修
20	八幡駅	16測	
21	取手駅	14測	30修
22	白井橋本村	15測	
23	習志野	15測	29修
24	登戸村	15測	30修
25	五井村	15測	

	茂原及大多喜近傍	
1	古所村	16測
2	長者町	16測
3	中魚落郷	16測
4	岩和田村	16測
6	茂原町	16測
7	苅谷村	16測
8	長志村	17測
9	勝浦町	17測
11	長南駅	16測
12	大多喜	16測
13	松野村	17測
14	興津村	17測
16	鶴舞村	15測
17	田淵村	16測
18	蔵玉村	16測
19	天津村	16測
21	真里村	15測
22	市場町	15測
23	笹村	15測
24	前原町	16測
25	磯村	16測 ⁵⁾

木更津及鹿野山近傍

1	奈良輪村	15測
2	上村	15測
		15測 ⁶⁾
3	鹿野山宿	14測 ⁷⁾
		14測 ⁸⁾
4	金東村	15測
5	松田村	16測 ⁹⁾
6	木更津村	15測
		36修
	江川村	15測 ¹⁰⁾
7	桜井村	15測 ¹¹⁾
8	佐貫町	16測 ¹²⁾
	湊村	16測 ¹³⁾
9	佐久間下村	15測
10	那古村	16測
12	富津村	15測 ¹⁴⁾
13	竹ヶ岡村	16測
14	加知山村	16測
15	船形村	16測

館山近傍

1	南朝夷村	16測
6	館山町	16測

7	白浜村	16測
11	柏崎村	16測
12	根本村	16測

栃木近傍

10	石橋駅	19測
15	壬生町	19測
20	栃木町	19測

28修

古河及関宿近傍

1	下館町	17測
2	下妻町	16測
3	新石下村	17測
4	水海道駅	16測
5	守谷町	14測
6	結城町	19測
7	関本村	17測
8	杓掛村	16測 ¹⁵⁾
9	岩井村	16測
10	野田町	14測
11	小山駅	19測
12	諸川町	16測
13	関宿	16測

26修

26修

26修正再版

27修正再版

14	西宝珠花村	16測	
15	粕壁駅	14測	
16	富田駅	19測	27修
17	古河町	17測	26修
18	栗橋駅	16測	27修
19	幸手駅	16測	27修
20	岩槻町	14測	
22	藤岡町	17測	
23	加須町	17測	
24	葛蒲町	17測	27修正再版
25	大宮駅	14測	27修正再版

桐生近傍			
15	桐生新町	18測	
20	大間々町	18測	29修
25	大胡町	18測	

館林及川越近傍			
2	館林	17測	
3	羽生町	17測	
4	鴻巣駅	17測	
5	平方村	14測	
6	足利町	17測	29修

7	小泉村	17測	
8	行田町	17測	
9	松山町	17測	
10	川越	14測	29修
11	太田町	18測	29修
12	妻沼村	17測	
13	熊谷駅	17測	
14	菅谷村	17測	
15	坂戸村	14測	
16	境町	18測	29修
17	深谷駅	18測	
18	小前田村	18測	
21	伊勢崎町	18測	29修
22	本荘駅	18測	
23	寄居町	18測	

前橋近傍			
5	前橋	18測	29修
10	金古駅	19測	

高崎及富岡近傍			
1	倉賀野駅	18測	29修
2	藤岡町	18測	

3	鬼石町	18測	
6	高崎	18測	
7	吉井町	18測	
8	讓原村	18測	

松戸及越箇谷近傍

1	我孫子宿	13測	30修
2	小金町	13測	30修
3	流山村	13測	
4	松戸駅	13測	30修
5	越ヶ谷駅	13測	
6	川口町	13測	27修

浦和及所沢近傍

1	浦和駅	13測	18修
2	蕨駅	13測	19修
3	大井町	14測	
4	大和田町	14測	
5	亀久保村	14測	29修
6	所沢村	14測 ¹⁶⁾	30修
7	飯能村	14測	
8	扇町屋村	14測	

東京近傍

1	八幡町	13測	29修
2	船橋駅	13測	29修
3	市川駅	13測	30修
4	逆井村	13測	29修
5	下谷区	13測	23修30修
6	麴町区	13測	30修
7	板橋駅	14測	24修正再版
8	内藤新宿	13測	30修

八王子及布田近傍

1	田無町	13測	27修
2	布田駅	13測	27修正再版
3	小川村	15測	29修
4	府中駅	15測	27修
5	拝島村	15測	29修
6	八王子駅	15測	28修29再修

品川及横浜近傍

1	品川駅	14測	24修
2	羽田村	14測	
3	二子村	14測	
4	川崎駅	14測	
5	横浜区	15測	

6	本 牧 本 郷 村	15測 ¹⁷⁾	
7	洲 崎 村	15測	
<hr/>			
	程 箇 谷 及 厚 木 近 傍		
1	登 戸 村	14測 ¹⁸⁾	
2	荏 田 村	14測	
3	程ヶ谷 駅	15測	25修正再版
4	小 野 路 村	15測	
<hr/>			
5	原 町 田 村	14測	
6	下 鶴 間 村	15測	
7	橋 本 村	15測	
8	上 溝 村	15測	
9	厚 木 町	15測	
<hr/>			
	相 模 国 中 部		
1	戸 塚 駅	15測	24修正再版
2	雪 下 村	15測	24修正再版
3	原 宿 村	15測	
4	藤 沢 駅	15測	24修正再版
5	下 糟 屋 村	15測	
6	平 塚 駅	15測	24修正再版
<hr/>			
	相 模 国 東 南 部		

1	浦 賀 町	15測	
2	海 類 島	16測	
3	横 須 賀 町	15測	25修
4	八 幡 久 里 浜 村	16測	
5	三 崎 町	16測	
6	小 坪 村	16測	
7	長 井 村	16測	
8	長 鶴 崎	16測	
<hr/>			
	小 田 原 近 傍		
1	大 山 町	16測	
2	小 磯 村	16測	
3	山 西 村	16測	
4	堀 芥 藤 村	16測	
5	松 田 総 領	16測	
6	小 田 原	16測	
<hr/>			
1)	初刷では子生村副		
2)	再版以降17年測とあり		
3)	再版の測年18年		
4)	修正図でも修正の注記はない		
5)	再版15年測とあり		
6)	25製版 一部空白 (秘扱部分)		

- 7) 鹿野山駅もある
- 8) 一部空白（秘扱部分）16年測もあり
- 9) 再版18年測もあり
- 10) 25年製版 一部空白（秘扱部分）
- 11) 秘扱あり
- 12) 一覧図に村とあり
- 13) 一部空白（秘扱部分）
- 14) 秘扱あり
- 15) 再版18年測とあり
- 16) 再版15年測とあり
- 17) 再版で18年測とあるものあり
- 18) 再版は18年測とあり